GAOT
Gunma Association of Occupational Therapists
一般社団法人
群馬県作業療法士会ニュース
「からっ風通信」　第131号　2018年1月発行

巻　頭　言

新 春 雑 感

一般社団法人群馬県作業療法士会長
（介護老人保健施設ミドルホーム富岡）
新井健五

年の瀬も近づいた頃、立て続けに2人の国会議員の方とお話をする機会を得た。

一人は、先の選挙で日本初の作業療法士の国会議員になった堀越啓仁衆議院議員である。当会は、政党の支持等については会員個々の判断に任せているところだが、その上で、“作業療法士の国会議員”として、そして同じ“群馬県のOT仲間”として、堀越氏個人という存在を応援していくのも、身近な政治参画として、何より職能・職域確保の意味からも意義が大きいと考える。必ずやわが国の作業療法発展のために熱く働いてくれると、私は信じている。今はまだ生まれたばかり。今後の彼を注視していきたいと思う。

もう一人は、理学療法士の国会議員である山口和之参議院議員である。とかく政治との関わりは煙たがられるこの業界だが、ロビー活動等の実態を知るに、われわれはもっと政治に関心を持ち、関与すべきだと再認識させられる。そもそも、OTもPTも法でその存在が位置づけられ、制度の枠組みの中で働くことで収入を得ている存在である。法や制度は国会で作られ、国会は国会議員によって構成される。つまりは、煙たがっている場合ではないのだ。われわれの職能・職域を守り未来につないでいくためにも、もっと政治や社会・国の動向に関心を持つようにしなければいけない。そして、時に、われわれ一人ひとりが、まとまりをもって声を上げなければいけない時がある。それを受け取り、国政につなぐのが堀越氏や山口氏の役割なのだ。報酬改定の結果に右往左往するのではなく、報酬改定の動向をわれわれの声で左右させようというくらいの意識と意気を持つこと、そのための活動をしなければいけないと職能団体の長として再認識させられた年の瀬であった。

さて、先日『リハビリテーション専門職の未来』と題したシンポジウムが、県庁を会場に、山口議員、山路理学療法士協会長、角田言語聴覚士会長、そして私をシンポジストとして開催され、大変多くのリハ専門職の参加が得られた。これは、“病院から地域へ”“身体機能から生活機能へ”というパラダイムシフトの波に飲まれ、上（所属団体上層部）から煽られ、さらに、供給過多でもう要らないとの噂（事実であるとも言える）に脅かされ、自分たちの未来が不安でならなくなっている（危機意識を持っている）リハ専門職がそれだけたくさんいるということを意味するものであるとも推察できる。今号は新年号であるので、新年らしく、希望ある未来を感じさせる内容をお伝えするために、このシンポジウムの際に私がプレゼンした内容の一部だけだがお伝えしておこうと思う。

アメリカで転職希望者が信頼を置いて利用するウェブサイトに「Glassdoor」がある。ここは、年間で最もよい職業のランキングを発表することでも有名である。そのランキングは、「予想収益（基本年収の中央値）」「満足度」「求人数」という3つの要素で全米におけるすべての職業について職業スコアを算出してランク付けされる。

2017年、作業療法士は12位であった。この高位にランクされたことの意味の重大さを感じてもらうためだけにあえて理学療法士の順位を紹介するならば、じつはTOP25にも入っていない。また、オックスフォード大学が行った「コンピュータ（ロボット化）の影響を受けやすい未来の仕事に関する調査」の結果報告では、コンピュータに代替されにくい仕事として、作業療法士は6位にランクされている。先ほどと同じくあえて紹介するなら、理学療法士はTOP20に入っていない（決して両者を比べるために紹介しているのではなく、それが意味していることを考えてほしくて紹介しているということは改めて申し添えておきたい。気を悪くされた方がいたら、ごめんなさい）。

急激なAIの進歩に伴って職業もまた急激に自動化（＝ロボット化）されていくことが現実として始まっている今、自動化できない職能を持つ職業だけが生き残っていく。自動化可能な職能は“人の職業”としては役目を終えていくのである。端的にいえば、運動機能リハはロボットでの代替が可能なのだ。しかし、生活上の困りごとの解決や豊かな生活の実現というリハ（でありマネジメント）はロボットによる代替は不可能なのである。ロボットに代替できないからこそ、多くの人材が求められることになるし、収入も高くなる。そして何より、個別性や創造性・応用性の豊かな仕事は、単純化（自動化）された仕事よりも当然満足度は高くなる。上記の結果は、そんな未来を見通しているものであるともいえる。

ここで再確認しておくが、上記はアメリカの作業療法・理学療法の結果であることをお忘れなきよう。今の日本で、同じ結果が出るかといえば、そうはならないだろう。「OTのPT化」がいわれて久しいが、昨今では「PTのOT化」の方がいわれていると聞く。これは、本来OTこそがその職能で取り組まなければいけない役割を担う生活行為（活動・参加）に密着したリハに、それほどたくさんのPTが取り組み始めている（危機意識を持ち、時代の養成に適合していこうとする方がそれだけ多い）ことの表れでもあるともいえよう。生活行為向上リハに熱心に関心を寄せて取り組んでいるのもむしろPTだともいうではないか。作業療法のプロフェッション（専門性）とは何なのか、今こそ見つめ直さなければ先述したような明るい未来など来ない。

作業療法の定義が変わろうとしている今こそ、生活上の困りごと（生活障害）を解決して望む豊かな生活の実現と自立につなげていくことを療法として提供するのが作業療法であるといえる実践をしていくことが未来につながるのだと思う。作業療法の原点であり未来まで有り続けるための鍵は、“生活に根ざしている”ことなのだと思う。対象者の生活に生じている「困りごと」を、身体機能や認知機能、環境などと結びつけてとらえ、動作分析や作業工程分析の視点や技術、認知機能障害と行為障害を結び付けてとらえる視点で分析し、解決（自立）へ協力・助言することが作業療法士の仕事であり、これこそが、作業療法士がすべき「自立支援」なのである。この考えと実践ができれば、地域ケア会議でも、自立支援型ケアマネジメントの実現でも、それこそ地域包括ケアシステムを実現していくにあたっても抜群の存在感を示せるようになるだろう。

作業療法士の専門領域は「生活（困りごと＝生活障害）」であるといえるようになろう。今、自分たちが専門領域だと思い込んでいる発達障害や身体機能障害、精神疾患は、困りごとを発生させている原因に過ぎないことを認識しよう。そんなプロフェッションが確立できれば、地域ケア会議にも、総合事業にも、サロンにも、特別支援教育にも、ひいては学校OTにも、専門領域にとらわれることなく誰でも参画できるようになる。これが、私が描きたい作業療法の現実的な“近”未来である。

さいごに、ごくごく近未来の作業療法の発展へ向けて、今この時期だから語っておくべきことを一つだけ付け加えておきたい。最近の注目ワードに『保険外サービス』がある。政府が発足させた『未来投資会議』の中で言われ、厚労省・農水省・経産省の3省連名で発刊した保険外サービス活用ガイドブックによってさらに注目された。これまで、保険制度内で仕事をし収入を得てきた作業療法だが、社会保障費の圧縮により対象者の地域生活への移行が叫ばれている中、OTの必要性や可能性、活躍の場は保険外の方にこそあるのではないかと思っている。作業療法の生活上の困りごと解決という専門性は、むしろ保険外の方が発揮しやすいのかもしれないし、その方が職域も拡大していけるのではないだろうか。ごく近い未来、地域で、保険外で活躍している作業療法士がたくさんいるようになる。新春にあたっての未来予想図である。

群馬県作業療法士会主催研修会のご案内

『発達障害領域における 地域作業療法の展開』

講師：うめだ・あけぼの学園 あけぼの学園
作業療法士 作業療法士 酒井 康年 先生

講師プロフィール

29年度より、日本作業療法士協会·理事に就任。
制度対策副部長、事務局次長を務める。
制度対策部の中でも、発達期の子どもたちを対象とした
施策である特別支援教育と障害児福祉領域を担当している。

日　時　平成30年2月23日（金）
19:00 ～20:30（受付 18:30 ～）

会　場　高崎市総合福祉センター（1F：会議室１）

受講費　1000円（群馬県士会会員以外は2000円）

・本研修は「基礎自由選択のポイント対象（2ポイント）」です。
・研修会参加時には、「生涯教育手帳 」と「日本作業療法士協会員証」を持参して下さい。

会場までのアクセス

参加申し込み方法

e-mailでの事前の参加申し込みです 。
※締切：2月13日（火）まで
申込みメールアドレス：gaot_west@yahoo.co.jp
メール件名：基礎研修申し込み
メール内容：
①氏名
②日本作業療法士会員番号（作業療法士の方のみ）
③所属
④返信用e-mailアドレス（携帯メールでは届かない場合あり。）

問合わせ先

吉田 将英（群馬整肢療護園）
tel：027-373-2277

一般社団法人群馬県作業療法士会　第3回理事会議事録

会　場： 群馬大学医学部附属病院
日　時： 平成29年11月22日(水)19：00～21：50
出席者： 理事 新井、関根、山口、勝野、高坂、品田、柴田、高橋、都丸、長谷川／監事　唐澤、小林

Ⅰ.会長から

1)吾妻地域リハビリテーション広域支援センター主催シンポジウム『リハビリテーション専門職の未来』が12月9日(土)に県庁2階において開催予定。新井会長がシンポジストを務める予定。
⇒詳細はすでに県士会HP研修案内に掲載

Ⅱ.各部からの報告事項

1.事務局から(長谷川事務局長)

1)定年退職等で現職にない会員の処遇【協議】
会員名称：シニア会員の名称使用にて全会一致で承認。
2)会費その他参加費について【協議】
会費：無料
研修会参加費：同額徴収
以上、全会一致で承認
3)会員の条件【協議】
年齢による条件：60歳以上
会員年数による条件：30年
日本作業療法士協会の会員の有無：問わず
退職の有無：退職者に限定
以上で、一度規約を作成し、再度協議
4)定款上の位置づけ
準会員を新たに設置。議決権は持たないものとする
5)会員の更新手続き：1年に1回の更新申請とする
＊具体的な方法は事務局で検討
6)休会制度について【協議】
日本作業療法士協会の休会制度と連動させる。
OT協会休会手続き→県士会も自動的に休会。
OT協会復会手続き→県士会も自動的に復会。
以上について全会一致で承認
7)県士会会員管理システムの導入について(協会システム講習会の結果を受けて)
結論：今回は見送りにて全会一致で承認
理由としては、OT協会の方で5年をめどに、協会の会員システムと県士会のシステムを一本化する方向で調整しており、県士会単独でのシステム構築は不要との考えから事務局としては、協会システムの会員と県士会の把握している会員との乖離があるため、こちらの原因調査と対策を行っていく(本年度及び来年度の事業)
8)ブロック組織強化事業、今後、ブロック別の会合を予定
①ブロック内での各事業所、施設OTの連携の構築
ブロック担当理事が主体となって、会合の開催を行うことで全会一致で承認。
各理事担当者へお願いした
②ブロック別のメールアドレス登録施設一覧をHP上に掲載
パスワードして閲覧制限をかけた状態にしておく
9)運転と作業療法WG
特設委員会化について
事務局事業としてではなく、特設委員会として組織化することを要望する
来年度より、特設委員会としての組織化で全会一致で承認
10)規約の集約について
本年度及び来年度かけて、規約の集成を行う。
規約は理事会で確認していく

2.教育部から　　柴田理事

1)研修システム運用における研修責任者に関して【協議】
会教育部担当柴田理事に一任(理事または教育部部長など)
当日責任者については教育部内で検討
2)研修受付用のPCに関して【協議】
①事務局管理、教育部保管
②来年度新規購入予定
③パソコン等の機材のセレクトは教育部で行う
以上について全会一致で承認
3)生涯教育制度中長期計画【報告】
2019年度以降協会の手帳を電子化へ完全移行へ
4)生涯教育制度における県士会と協会の役割分担について【報告】
今後現職者共通・選択研修は将来的にe-Learningへ
認定取得共通・選択研修を将来的に士会で開催方向となる
5)研修医会議等の活動報告【報告】
① 基礎研修11月5日開催
講師：平石武士先生
参加人数：40名
収入：￥120,000　(1人￥3,000)
その他：実技指導を伴う内容で行う
講師とのやりとりなど課題あるが参加申し込み定員超過で調整あり。
需要は大きい。
② 現職者選択研修「発達障害領域」
講師：北爪浩美先生
参加人数：29名
収入：￥116,000　(1人￥4,000)
その他：他県士会から2名参加あり、参加者多数で結果良好
利用者が講師と話すなど新しい試みも、受講者反応良好。

3.地域作業療法推進部(発達支援グループ)勝野理事

1)「学校訪問マニュアル」「報告書書式」の取り扱いについて【協議・報告】
群馬県作業療法士会が作成、使用しているマニュアルが、OT協会の情報交換会にて配布された。この件について、協会からの報告や「群馬県作業療法士会作成」の表記についての対応に問題がある。

〈上記に関しての県士会としての対処〉

新井会長が担当理事及び担当G長から事実関係を聴取・確認した後、協会へ報告し、協会側の事実関係も確認の上、協会担当理事と共に適切に対処する。対処結果については、次回理事会で報告する。

まずは事実関係を担当理事がまとめて新井会長へ報告。

2)学童保育連絡協議会との連携について【報告】

岡山県学童保育連絡協議会代表糸山氏と高崎市で学童保育等を運営している丸茂氏と面会(11月12日)

発達支援Gとして、保育士や指導員に対する研修会の講師派遣などの形で協力していくことが出来るか検討する。

3)特別支援学校派遣事業【報告】

10月以降の派遣依頼が始まっている。各ブロック3～4件の依頼に対応している。

4)勉強会の実施について【報告】

日時:11月9日

参加者:13名。

内容:症例検討

情報交換会の報告

教員などに対する研修会講師依頼増加の現状に対する講師養成研修会の必要性

5)パイロット事業会計処理について【報告】

協会に提出済みの領収書について→OT協会へ領収書コピー送付を依頼済み

6)発達支援グループHPの運用について【報告】

①HPの次年度以降予算:業者とサーバーレンタル料(通常年間6万)について交渉中。発達支援Gに関する印刷物に関しては今後この業者に継続発注することで無償化するなどの提案も業者よりなされている。

→新井会長:提案や料金額については精査の上、理事会での検討が必要。現にレンタル(契約)にあたっては、互いに内容に齟齬の生じ無きよう「契約書」を締結して適切に取り扱うことが法人として必要である。

上記の案件については、来年度予算の際に詳細を担当理事より報告いただく。

②HPの活用に関して【報告】

今後、連絡や情報発信ツールとして活用する。

東京都士会の発達Gはフェイスブックを活用しているとの事。

方法を現実的に検討する

4.地域作業療法推進部　高坂理事

1)認知症グループ活動報告【報告】

10/21,22　認知症ケア資質向上のための研修(ベーシック)を開催。

両日ともに100名程度の参加者があった。

1/21　認知症ケア資質向上のための研修(アドバンス)を実施予定。

講師との連絡調整中。

2)精神科領域推進グループ【協議・報告】

高坂理事より精神科領域推進グループ活動内容案について報告

①活動の目的

精神障害作業療法や認知症患者の治療・退院支援等に関する知識・技術の共有・研鑽及び実践への反映を通し群馬県内の精神科関連施設の作業療法の質を高めること。またこれらの経験から今後の精神障害領域を担う、後進の人材育成を図ること

②活動内容

＊県士会・協会加入率を高める取り組み

＊勉強会の実施

＊学術活動に関する支援

＊情報交換

＊研修会の企画・運営(教育部との連携)

＊自殺予防対策事業への申請

＊精神科関連イベントへの参加

以上の内容について報告。

〈理事会確認事項〉

本年度はまずは精神科領域に従事する県士会員が参加できる受け皿作りを行っていく

次年度以降、地域作業療法推進部精神科領域推進グループとしての活動をしていく

イベントや研修会開催に関連した広報部や教育部との連携は、担当者間で準備進めていく

3)平成30年度　地域自殺対策強化事業　事業計画に関して【協議】

①予算

普及啓発事業:￥325,000

内訳:研修会、グッズ作成等

＊事業計画、予算案について全会一致で承認

5.広報部　都丸理事

1)公益事業グループ活動報告

①事業報告

H29.10.29(日)に開催された健康フェスタinまえばし2017に出展。

出展内容:「作業を通して、体と頭を健康に!作業活動体験コーナー」

地域の方々とプラ板でのキーホルダー作りを実施。

②事業予定

H30.1.7(日)「作業療法フェスタ2018」を開催予定。

場所:高崎イオン

出展内容:11月下旬～12月上旬に会議を開催し、検討予定。

その他:理事や会員にもぜひ来場していただき盛り上げて頂きたい。

2)ニュース編集グループ活動報告

①1月号の発行準備中。原稿がある場合は12月末までに担当者へ

②来年度に向けてニュース内容の充実化を目指し、内容検討を進めている

3)審議事項【協議事項】

①ニュース発行時期について

現行:7月・10月・1月・3月の発行

改定案:7月・10月・1月・4月

改定案について、全会一致で承認。来年度から変更予定

②フェイスブック等のSNS利用について

⇒継続審議

6. 福利厚生部について　担当理事不在により書面での報告

1) 活動報告

内容：リレーフォーライフへ参加

日時：10月7日・8日

参加者：34名の県士会員

2)活動予定

①県学会

・例年通り、優秀演題賞、学術奨励賞を行う予定。

・群馬県作業療法協会のオリエンテーション

②学生へのオリエンテーションの企画

学生に対して、県士会のオリエンテーションを行いたい。

早期の段階から県士会加入への促しを行いたい。(学生会員とのリンクも必要)

学生へのオリエンテーションについては継続審議

③群馬県作業療法士優秀学生賞について

例年通り、12月下旬から受賞に向けた準備を進めていく。

7. 財務部　高橋理事

1) 報告事項

11/5前期決算及び引継ぎを実施。

前期決算はまだ確定せず11/26再度行う予定。

2) 今後の会計での注意事項

①補助金事業に関して

県士会決算前に領収書等の提出をされる場合には必ずコピーをとること

コピーは日付、金額がわかるようすること

②通帳からの引き落としや振り込み時等の明細書の紛失が多くあり

時間外の引き落としには手数料がかかり、各部の通信料となる。

③事業費の取り扱い範囲

各部研修等の中心となる事業に関する会計は事業費となる。

研修会当日の委員等の飲食代も事業費となる。(その際は詳細を記入すること)

3) 現時点での会費未納者について

①H29年度時点：協会に加入しているが、H29年度 県士会費未納（1年分）

未納者87名、未納額696,000円

→ 会費の納入（1年分）のお知らせを送る（期限H29年12月末）

②H29年度時点：協会に加入しているが、H28・29年度 県士会費未納（2年分）

未納者9名、未納額144,000円

→　会費の納入（2年分）のお知らせを送る（期限H29年12月末）

2年滞納者は退会手続きを開始すること記載します。

③協会をH28年度時点で退会（会費未納で強制退会済）県士会費は口座引き落としにてH29年度継続中

※協会と県士会の事務処理の時間差（協会費会費納入の猶予期間等）により、口座引き落としで会費をもらってしまったパターンが主

21名、返金額18名×8150円＝146,700円

確認事項：協会退会者で県士会の会費納入があった場合、例外なく返金処理をして、退会処理でよいか

上記について、全会一致で承認。退会・返金処理を進めることで一致

4) 検討事項

①県士会を代表して研修会に参加した時の宿泊費の上限額設定について

現行：上限￥8,000

昨今の都内等の宿泊費の高騰に伴い上記額では対応が困難なことも出てきている。

改定案：協会(下記) に準ずる方式を取るのはどうか

協会　甲地方　特別区（東京23区）及び政令指定都市 11,000円

乙地方　甲地方以外の地域 10,000円

改定案について全会一致で承認。

今後は事務局(財務) にて規約の見直しを行う

②会費納入方法に関して

今後振替を推奨するなら手数料を含めての料金にするなどの検討が必要。

現在、口座振替の契約が法人化前の名前の為、変更する場合、会員人数分の口座振替用紙の再配布及び回収が必要。

またその後引き落としデータを作成する必要あり。

引き落としデータの提出期限毎年2月頃。引き落とし日4月下旬。

⇒上記は会費納入方法の検討含め継続審議

8. 保険部　勝野理事

1) 協会からの保険情報の周知について【報告】

協会からの情報通知事項に関して、メール登録施設へ保険情報の通知を実施

9. 学術部　関根学術局長

1) 学術研究支援グループ

①報告事項

平成29年度学術支援グループ勉強会を開催した（第3回 9／26、4回 10／30）参加者は7名

第20回群馬県作業療法士学会 ポスター作製支援を4名の会員に行った。

②審議・検討事項：なし

2) 機関誌編集グループ【報告】

機関誌「ぐんま作業療法研究vol.20,2017」の発刊準備中

投稿論文：10題掲載予定

特集：テーマ「群馬県作業療法士会30 周年を迎えて」

11/8（水）19:30～　新井会長、関根副会長、山口副会長を迎えインタビュー実施済み。

3) 学会支援グループ

①報告事項

・ 第20 回群馬県作業療法学会の実行委員会に参加した（第2 回：10/27）。

・ 県学会で使用する生涯学習ポイントシールを協会より取り寄せた。

・ 県学会の決算報告に関して県学会・県士会財務担当との打ち合わせ日程を調整中

②審議・検討事項【協議】

- ・県学会支援グループが約20 名の組織を立ち上げ、継続的に県学会を運営する。
- ・大会長のブロック制を維持し、「学会テーマ」などは大会長の意向に従う。
- ・「学会誌」と「ぐんま作業療法研究」を統合し、業務のスリム化を図る。

〈学会支援グループの組織化と県学会運営について〉

新井会長:

ブロック支部とは「小さな県士会」「身近な県士会」だと私は認識している。

ブロック支部で学会運営を担うことで、各ブロック支部内における会員の横のつながりの促進と組織力の向上につなげていくということが当初の目的。

学会運営のブロック支部での担当は、現在のところでは、唯一のブロック支部活動であるので、当該組織を設置するにしても、学会開催に向けて、ブロック支部の会員も準備や運営に参画できる仕組みが必要だと考える。

いわゆるスペシャリストグループとしての当該組織の設置の意義は理解するが、その組織のみが活動することにならないか、また、それによって、その組織任せの姿勢(主体者意識の欠如)を生んでしまわないか大いに懸念する。

学会支援グループが、学会長や実行委員長のサポートに入ることは重要だが、主要な作業すべてを請け負ってしまうことがないように注意が必要である。

学会という大きな事業運営に関する主要な作業を担うという貴重な経験を一会員も支援を受けながらできるようにしたい。これが組織としての人材の発掘や育成の一助になるものと考えている。

山口副会長:

学会支援グループにだけお任せするような運営にならないように注意が必要

→来年度学会運営に向けて、継続審議が必要

〈学会誌とぐんま作業療法研究の統合について〉

→担当理事不在のため継続審議とする

10. 養成校連絡協議会　書面にて報告

1) 報告事項

12月6日に第一回養成校連絡協議会開催予定

2) 審議・検討事項:なし

Ⅲ.その他伝達事項

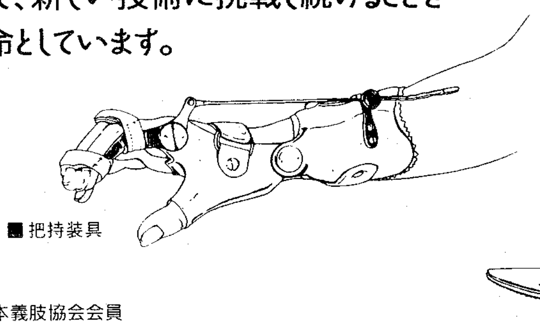
次回、理事会

日時:2018年1月24日(水)19:00~(18:30~集合)

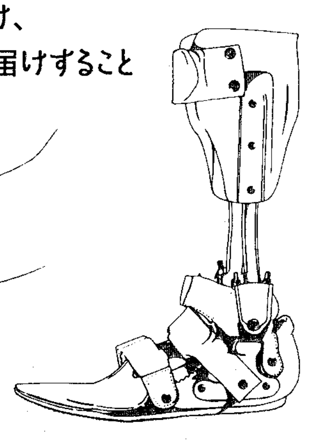
場所:未定

精緻さを力へ。乗り越える、支える力へ。

わたしたちは、常に現場の声に耳を傾け、
患者さんひとりひとりに合った製品をお届けすること
そして、新しい技術に挑戦し続けることを
使命としています。

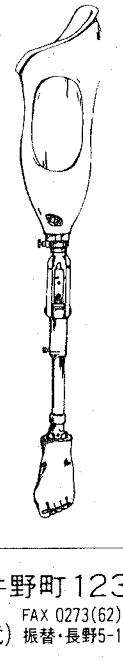


■把持装具



■プラスチック短下肢装具

■座骨収納型骨格式大腿義足



(社)日本義肢協会会員
ISPO会員
日本義肢装具学会会員
バイオメカニズム学会会員
先端医療技術研究会会員
技術研究組合医療福祉機器研究所組合員

取扱い／義肢・装具全般、補助具、車いす

お問い合わせは

株式会社 高崎義肢

〒370　群馬県高崎市井野町1235
☎0273(61)2074(代)
FAX 0273(62)6170
振替・長野5-14820

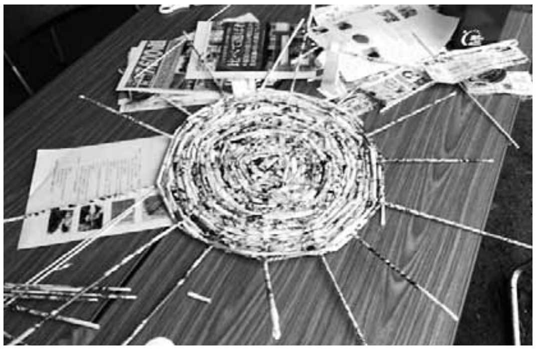
第1回アジア太平洋作業療法シンポジウムに参加しました

公立藤岡総合病院　飯塚　彩

台湾のChang Gung University で開催された第1回アジア太平洋作業療法シンポジウムに10月20から22日に群馬大学の先生や博士課程の方々と参加させて頂きました。アジア各国の作業療法士や業者が集まり、ポスター発表やデモ展示されており、大学の各教室では様々なテーマのシンポジウムが開催されていました。言語は全て英語でした。過去に習った英単語や文法や単語を頭の中から引っ張り出しながら理解に努めました。しかし、発表のテーマは興味深いものが多く言語は違っていても同じ職種として日々臨床で感じる疑問やこうなって欲しい、といった患者さんへの思いは共通しているように思いました。聴講のみの参加でしたが大変貴重な経験となりました。

リレー・フォー・ライフぐんま

福利厚生部　設楽俊史



　リレーフォーライフとは、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すチャリティー活動であり、群馬での開催は5回目となっています。その中で、「がん患者さんは24時間戦い続ける」という意味で、24時間フラックをつなぎながら歩く「リレーウォーク」がありました。多くの病院や群馬県理学療法士協会などの各職能団体ら、76チームが参加しており、今年度より群馬県作業療法士会も参加しました。
群馬県作業療法士会は33名が参加し、交代でフラッグをバトン代わりに24時間つなぎ続けることが出来ています。このイベントでは、音楽演奏、ヒーローショーなどの催し物があり、子供から大人まで楽しめ、歩きながら楽しめます。また、会場にはフードコーナーも出ており、食事も楽しみの一つです。各団体が参加し、各団体のブースが設けられ、ハンドマッサージなどリフレックスコーナー、がんに対する相談コーナーが設けられ、歩いていない時間も楽しめるようになっています。わが群馬県作業療法士会のブースでは24時間あんでるせん作りを来場者とともに行い、作業療法についての広報も行ってきました。
リレーウォークでは、「共に歩く」ことで、お互いのスピードを感じ、同じ目的を持つことで、自然と会話が生まれ、会話をすることで歩いている大変さを忘れさせ、日の明け暮れは普段得られない充実感を強く感じることができます。
　今後も、がん患者さん、そのご家族のご支援、がんの征圧にむけた活動へ参加し、がんで苦しまれる方々が減ることを祈ると共に来年度も是非参加できればと思います。
最後に、リレーウォークは1人で24時間歩くわけではありません。来年度開催される際には、会員の皆様も1時間2時間でもよいので参加し、共に歩き、群馬県内の作業療法士として、共に歩んでいければ最高です。

参加した県士会員の感想

角田病院　石田真一

改めて「がん」について、健康について、考える機会を与えてくれたイベントとなりました。当日はボランティアの員数の多さにまず驚きました。中心イベントとなるリレーウォークの他に、血管年齢測定、ストレスチェックなどのブースもあり、参加された多くの方が自己の健康状態を意識できるよい機会となったと考えます。後日調べると現在、日本における死因第一位は「がん」であることを知りました。このような活動は継続することで各個人の健康に対する意識も良い方向に変わる活動であると感じました。

角田病院　齋藤沙妃

今回初めてリレーフォーライフに参加させていただきました。それまでは、私はリレーフォーライフというイベントを知りませんでした。一つの目的に向かって他職種やサバイバーの方などのいろんな方と協力するという人の繋がりの大切さを学ばせて頂きました。ルミナリエを読ませて頂くと一つ一つに前向きな言葉や思いやりの言葉、感謝、希望、決意などが書かれていました。参加して感じたことを伝えていくことが「がん」と闘っている方、支える医療関係者や家族などの新たな支えになり、理解に繋がると感じました。今回とても有意義な時間を過ごさせて頂き、人と人との繋がりが勇気や希望を与えることを実感しました。沢山の人に支えられ開催されており、自分も一員になれたことに嬉しさを感じます。来年度もぜひ参加したいと思います。

「繋がり」

副会長　関根圭介

「作業療法士は会で参加していないのですか？」この職場の同僚からの言葉で、私は会での参加を考えるようになった。私の勤務する職場はイベントの後援をしていて毎年参加している。はじめは違ったかもしれないが多くの職員は自主的に参加している。私の体感だが、イベントの雰囲気は体育会系でもあり、フェスのようでもあり、高校の文化祭のようでもある。一度行ったら、また来年も出ようと思わせる何かがあると思う。ただリレーウォークやイベントを義務として参加すると、また出たいという体験はできないかもしれない。当会としては、多くの会員が「10月のリレーフォーライフ」に合わせてスケジュールを自ら調整して、多くの会員が自主的に参加してこれから何年も続いていくことを願っている。

新入会員紹介②

質問項目

①氏名
②現在の所属
③生年月日
④出身地･学校
⑤OTになった現在の心境
⑥好きな芸能人とその理由
⑦今，ハマっている
⑧これからの抱負

① **井上 高志**
② イムス太田中央総合病院
③ 1994年8月13日
④ 群馬県
⑤ 地元の総合病院で知識をつけたかったから
⑥ とにかく明るい安村／自分に似ているから
⑦ スロット、ゲーム
⑧ 宜しくお願いします

① **加藤 雅健**
② イムス太田中央総合病院
③ 1994年11月13日
④ 栃木県足利市
⑤ 急性期から維持期まで幅広く診られること、自宅から近いから
⑥ ダウンタウン／面白いから
⑦ マリンスポーツ
⑧ OTとして精一杯頑張っていきたいと思います。

① **室岡 奈美**
② イムス太田中央総合病院
③ 1994年7月27日
④ 栃木県足利市
⑤ 実家が近く、大学の先輩が居たため
⑥ サンシャイン池崎／自分に似ているから
⑦ ライブに行くこと
⑧ 宜しくお願いします。

① **大熊　彩**
② 公益財団法人老年病研究所附属病院
③ 1991年1月2日
④ 前橋医療福祉専門学校
⑤ まだまだ戸惑うことはたくさんありますが、患者様とコミュニケーションがたのしいです。
⑥ 小栗 旬／仕事に熱くてイケメンなところ
⑦ Minecraft
⑧ 先輩方に早く追いつけるよう頑張って、活躍していきたいです。

① **渋谷 研吾**
② 医療法人社団日高会 日高病院
③ 平成5年12月4日
④ 群馬医療福祉大学
⑤ 広く様々な知識を取り入れ、将来に生かしていきたい。
⑥ Acid Black Cherry／カッコいいから
⑦ サーフィン、ボクシング、温泉
⑧ 勉強や遊びに対して様々な経験を積み、将来に活かしていきたいと考えております。皆さんご指導のほどよろしくお願いします。

① **手島 稜登**
② 老年病研究所附属病院
③ 5月10日
④ 群馬大学
⑤ 一社会人として責任ある行動を心掛けて 業務に臨んでいます。
⑥ 永作博美／歳を重ねても美しく女性として非常に魅力を感じるため。
⑦ 半身浴
⑧ 常に学習する姿勢を忘れず 日々の臨床に励みたい。

① **登山 眞衣**
② 公益財団法人老年病研究所附属病院
③ 1995年3月17日
④ 北里大学
⑤ 分からないことと初めてのことだらけで、OTとしてちゃんと出来ているか不安ですが、先輩方や患者様から日々学んで成長できたらと思います。
⑥ 星野源さん／雰囲気や話し方も素敵ですが、いろんな才能があるところも魅力的です。
⑦ お散歩
⑧ 勉強会などの機会を利用し積極的に知識を学んで、患者様のために生かせるよう努力していきたいです。

Q&A

執筆者●中澤 浩幸
〈出身校〉
 太田医療技術専門学校
〈OT免許取得年〉2010年
〈現在までの職場履歴〉日高病院（8年目）

Q1

OTになったきっかけは？

A1

祖父二人とも脳卒中になり、リハビリを受けているところを見て初めてリハビリというものを知ったこと、自身も怪我をしたこともあり医療系に進もうと思ったのがきっかけです。リハビリの中でもOTになろうと思ったのは、より生活に密着した介入、作業活動を通してという点、どの職種より笑顔を作り出せるのではないかと思ったことです。

Q2

今の職場を選んだきっかけは？

A2

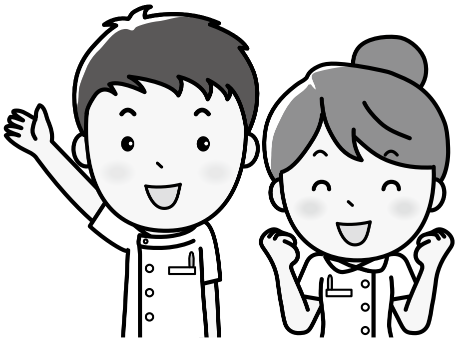
実習地であったことが選んだきっかけです。また病院理念が「患者の満足を第一に考え、質の高い医療を提供する」という患者様を第一に考えることが大きい理由です。

Q3

今の職場で働いていて良かったと思うことは？

A3

教育システムがしっかりしていたことです。当院では職員達成度評価というものを半年に一度行っております。内容としては業務の自立度、臨床能力、症例発表や研究活動などを評価し、達成度に応じて階層が上がっていくというものです。今後の課題や目標などを立てることが出来る良いシステムだと思っています。何よりも年功序列ではないということが働く上でモチベーションに繋がっていると思います。
また永年勤続でハワイに行けることも大きいと思います。ちなみに私は今年度ハワイに行けます。



Q4

職場で求められているOTのの役割、或いは個人が考えるOTの役割とは？

A4

ADL、IADLの獲得はもちろんのことですが、退院後の患者様の役割や生きがいなどを一緒に探し出せるのがOTとして一番必要だと思っています。また何よりも患者様の笑顔を引き出せるのがOTであって欲しいと思います。私は「一日一笑」を自身の目標として臨床を行っています。臨床をしていると患者様とご家族様の関係って面白いと思うことがあります。「患者が笑うと家族も笑う、家族が笑うと患者も笑う」。だからOTは笑顔を作り出して欲しいと強く願っています。

Q5

最近ハマっているもの（こと）は何ですか？

A5

息子が大好きなキューレンジャーにはまっています。いつもやられ役で、顔に傷を作っていますが（笑）。

Q6

会員の皆さんへメッセージをお願いします。

A6

私は広報部の公益事業グループ長として広報活動をしています。広報活動としてはOTフェスタを始めとするイベントを年間通して行っています。地域の皆様と交流し、OTを実際に体験した方などの生の声を聞くことができる良いものだと思っています。グループ長としての私の目標は、OTの宣伝や地域貢献はもちろんですが、何よりも広報活動している部員が楽しめるものになることです。活動しているものたちが楽しくなくては伝わるものも伝わらないと思っています。入部でなくても、イベントに参加してみたい、興味がある方は是非ご連絡頂ければと思います。皆さんで群馬のOT、日本のOTを盛り上げていきましょう。

施設紹介

関越中央病院

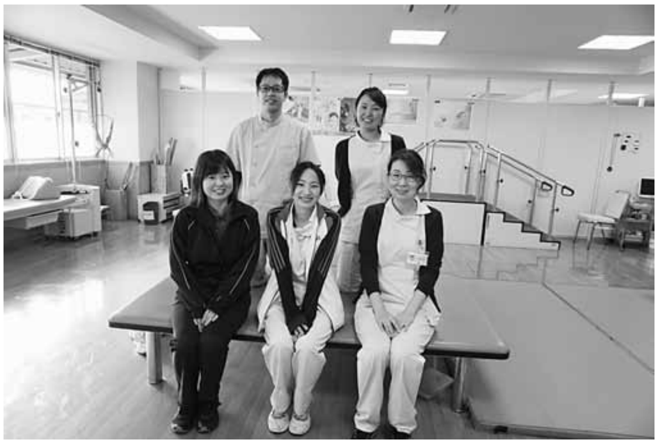
【病院の概要】

関越中央病院は前橋市、高崎市、吉岡市の中間に位置し、昨年で開設30周年を迎えました。病床は90床を有し、循環器内科を中心として消化器外科、呼吸器外科、整形外科、脳神経外科、整形外科と多種多様な疾患に対応し治療を行っています。地域の方がその地域で安心して暮らせることを目標にしており、在宅での生活の継続を支援しております。家族・友人・近隣住民との生活、交流の継続による安らぎの効果と残存能力の活用によって利用者の生活の質の向上をはかることを常に心掛けています。病院と併設して地域で生活していくための施設として診療所、あんしんセンターを中心とした通所系，訪問系介護事業所がある地域ケアセンターがあります。また、独居の方や老々介護のご夫婦などを対象に地域に近い環境で生活していただける施設としてサービス付き高齢者賃貸住宅である「介護・福祉村北原の里」も併設されています。来年度より地域包括ケア病棟の開設をめざしており，ますます作業療法士の活躍が求められる病院となります。当院は様々な休暇制度や保育所も整備し、職場環境に配慮しているため、子供のいる職員も働きやすい環境となっています。

【リハビリテーション部門】

作業療法士6名　理学療法士13名

言語聴覚士3名



【作業療法部門の紹介】

病院にいらっしゃる患者様は多種多様な病気を持っており、特に内部障害により生活動作能力が低下している方も多くいます。ICU・CCUに入床中で早期リスク管理が必要な方でもベッドサイドから介入をしています。他職種とのカンファレンスや多くの検査データの照合を通し、安全性を評価しながら離床、動作方法の指導などを行い早期の退院を目指しています。その他にも整形疾患や脳血管疾患で入院される患者様もおり、患者様の障害に合わせ日常生活動作、家事動作、高次脳機能、精神機能の評価・訓練なども行っています。介護保険分野ではデイサービスやショートステイ、訪問リハビリの利用者様に対しても、利用者様の状態に合わせ多様な訓練を行っています。病院や介護分野など様々な分野での作業療法を経験することで患者様へより的確なリハビリを提供することができるようになることと、自分自身スキルアップにもつながっています。複合的な疾患によりなかなか自宅復帰が難しい患者様もいますが、作業療法士のスタッフ間、医療・介護分野間でも連携を図り、密にコミュニケーションを取ることで患者様がよりよい生活を送るにはどうしたらよいか検討し日々尽力しています。

大学院社会人学生募集中

当研究室は、運動生理学手法を用いた上肢機能解析を中心に、身体障害作業療法分野全般の研究を行っています。現在県内外の作業療法士が仕事と研究を両立、修士・博士課程に在籍しています。身障分野の臨床研究に関心のある方は、当研究室で大学院を目指してみてはいかがでしょうか。
毎週の勉強会は一般公開していますので、ご興味のある方はぜひご連絡ください。

群馬大学大学院　保健学研究科
教授　李範爽
leebumsuk@gunma-u.ac.jp

投稿大募集!!

ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や日常業務で工夫している点、こんな研修会に参加した・・・などなど、皆様からの投稿を募集しております。
どんなことでも構いませんので、お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております!!

アドレス：dc_nanohana@yahoo.co.jp
広報部・ニュース編集グループ
反町拓海

県士会ホームページアドレス
www.gunma-ot.com

編集後記

新年明けましておめでとうございます. 本年もよろしくお願い致します。
県士会員の皆様の昨年は如何だったでしょうか？また、本年はどんな一年にしたいですか？
昨年には家族が増え、年明けの家族旅行に思いを馳せながら原稿を執筆しております。今年度は色々な意味で、変化に富んだ一年にしていければ…と思っております。明るく、楽しく、元気良く、県士会の盛り上がる一年にしていきましょう!

S

群馬県作業療法士会ニュース
発 行 者‖新井　健五
発 行 所‖群馬県作業療法士会事務局　〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号　TEL・FAX 027-224-4649
編集代表‖反町 拓海　　編集委員‖中村 真美、関　仁紀、下田　幸、吉澤 一郎　　印刷‖星野印刷株式会社